

# デーヴォ ガイド



**2024.3.18-24**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

## セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

55:16 私が神を呼ぶと【主】は私を救ってくださる。  
55:17 夕べに朝にまた真昼に私は嘆きうめく。すると主は私の声を聞いてくださる。  
55:18 主は私のたましいを敵の挑戦から平和のうちに贖い出してください。私と争う者が多いから。  
55:19 神は聞き彼らを苦しめられる。昔から御座に着いておられる方は。セラ彼らは改めず神を恐れない。  
55:20 彼は親しい者にまで手を伸ばし自分の誓約を犯している。  
55:21 その口はよどみなく語るが心には戦いがある。そのことばは油よりも滑らかだがそれは抜き身の剣である。  
55:22 あなたの重荷を【主】にゆだねよ。主があなたを支えてくださる。主は決して正しい者が揺るがされるようにはなさない。  
55:23 しかし神よあなたは彼らを滅びの穴に落とされます。人の血を流す者どもと欺く者どもは日数の半ばも生きられないでしょう。しかし私はあなたに抛り頼みます。

ダビデは、「私が、神を呼ぶと、主は私を救ってくださる。」と信仰の告白をしています。しがし多くの場合、苦しみの現実の中では葛藤があるというのも事実でしょう。神に背く人々が幸せそうに生きているように見えるということです。

そこでダビデは神の権威のもとに生きる全人類についても、信仰の告白をしています。主に従わない人の行く末についてです。「彼は、自分の親しい者にまで手を伸ばし、自分の誓約を犯している。」というような者は、結局「神よ。あなたは彼らを、滅びの穴に落とされます。」というようなことになるのです。

これは事実であるとともに、ダビデの自分自身の決心への励ましともとれそうです。自分はどうんなに苦しくてもあのようににはならないぞという決心です。

信仰の反面教師をさばく必要はありませんが、それらの事例から警戒を与えられましょう。そして自分自身は主の恵で強められ、できることなら主から離れた人々が立ち帰るための力になりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 19日 火曜

### 詩篇

<56> 指揮者のために。「遠くの人、もの言わぬ鳩」の調べにのせて。ダビデによる。ミクタム。ペリシテ人がガテでダビデを捕らえたときに。

56:1 神よ私をあわれんでください。人が私を踏みつけ一日中戦って私を虐げているからです。

56:2 私の敵は一日中私を踏みつけています。高ぶって私に戦いを挑む者が多いです。

56:3 心に恐れを覚える日私はあなたに信頼します。

56:4 神にあって私はみことばをほめたたえます。神に信頼し私は何も恐れません。肉なる者が私に何をなし得るでしょう。

56:5 一日中彼らは私のことを痛めつけています。彼らの思い計ることはみな私に対する悪です。

56:6 彼らは襲おうとして待ち伏せし私の跡をつけています。私のいのちを狙って。

56:7 不法があるのに彼らを見逃されるのですか。神よ御怒りで国々の民を打ち倒してください。

56:8 あなたは私のさすらいを記しておられません。どうか私の涙をあなたの皮袋に蓄えてください。それともあなたの書に記されていないのですか。

56:9 そのとき私の敵は退きます。私が呼び求める日に。私は知っています。神が味方であることを。

56:10 神にあって私はみことばをほめたたえます。【主】にあって私はみことばをほめたたえます。



56:11 神に信頼し私は何も恐れません。人が私に何をなし得るでしょう。

56:12 神よあなたへの誓いは私の上にあります。感謝のいけにえであなたにそれを果たします。

56:13 まことにあなたは救い出してくださいました。私のいのちを死から。私の足をつまずきから。私がいのちの光のうちに神の御前に歩むために。

ダビデは苦しみの中にいて、敵に「踏み」つけられています。そのような中で「肉なる者が、私に何をなし得るでしょう。」「人が、私に何をなし得るでしょう。」と、勇気を持って信仰を宣言しています。

一つには神様が味方だから、その神様よりも人が強いはずかないという事実です。また一つにはたましいに関しては人は無力だということです。ダビデ同様、私たちに関しても、誰もその永遠の命を奪うことはできませんし、主への信仰を奪うことはできないのです。

主の前に人は無力だということを宣言しながら、主に信頼して行きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 20日 水曜

### 詩篇

<57> 指揮者のために。「滅ぼすな」の調で。ダビデによる。ミクナム。ダビデがサウルから逃れて洞窟にいたときに。

57:1 私をあわれんでください。神よ。私をあわれんでください。私のたましいはあなたに身を避けていますから。私は滅びが過ぎ去るまで御翼の陰に身を避けます。

57:2 私はいと高き方神を呼び求めます。私のためにすべてを成し遂げてくださる神を。

57:3 神は天から助けを送って私を救い私を踏みつける者どもを辱められます。セラ神は恵みとまことを送ってください。

57:4 私のたましいは獅子たちの間で人の子らを貪り食う者の間で横たわっています。彼らの歯は槍と矢彼らの舌は鋭い剣です。

57:5 神よあなたが天でああなたの栄光が全世界であがめられますように。

57:6 彼らは私の足を狙って網を仕掛けました。私のたましいはうなだれています。彼らは私の前に穴を掘り自分でその中に落ちました。セラ

57:7 神よ私の心は揺るぎません。私の心は揺るぎません。私は歌いほめ歌います。

57:8 私のたましいよ目を覚ませ。琴よ豎琴よ目を覚ませ。私は暁を呼び覚まそう。

57:9 主よ私は国々の民の間でああなたに感謝しもろもろの国民の間でああなたをほめ歌います。

57:10 あなたの恵みは大きく天にまで及びあなたのみことは雲にまで及ぶからです。

57:11 神よあなたが天でああなたの栄光が全世界であがめられますように。



られます。」と確信しています。苦しい中でこそ、このように宣言することが重要です。大きな力になります。

またダビデがそれを詩で表わしていることに着目せずにはいられません。彼は、「私のたましいは獅子たちの間で人の子らを貪り食う者の間で横たわっています。彼らの歯は槍と矢彼らの舌は鋭い剣です。」というように、これまでもそうなのですが、自分の苦しみを豊かなことばで表しています。

もしかしたらそれが、感情を昇華させるのに役立つのかも知れません。もちろん信仰があつてこそですが、その信仰とともに、自分の苦しみを作品とすることによって、冷静に客観的に見られたのかも知れません。祈りと共に自分の苦しきをも詩としてしまう強さを試みてはいかがでしょうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？

ダビデは、「神は私を踏みつける者どもを、辱め



## 21日 木曜

### 詩篇

<58> 指揮者のために。「滅ぼすな」の調べで。ダビデによる。ミクナム。

58:1 力ある者たちよおまえたちは本当に義を語り人の子らを公正にさばくことができるのか。

58:2 実におまえたちは心で不正を働き地で手の暴虐をはびこらせている。

58:3 悪しき者どもは母の胎を出たときから踏み迷い偽りを言う者どもは生まれたときからさまよっている。

58:4 彼らには蛇の毒のような毒がある。耳の聞こえないコブラのように耳を閉ざし

58:5 蛇使いの声も聞こうとしない。巧みに呪文を唱える者の声も。

58:6 神よ彼らの歯をその口の中で折ってください。【主】よ若獅子たちの牙を打ち砕いてください。

58:7 彼らが流れ行く水のように消え去り神が矢を放たれるとき干上がりますように。

58:8 彼らが溶けて消え行くなめくじのように日の目を見ない死産の子のようになりますように。

58:9 おまえたちの釜が茨の火を感じる前に神はそれが緑のままでも燃えていても等しく吹き払われる。

58:10 正しい人は復讐を見て喜びその足を悪しき者の血で洗う。

58:11 こうして人は言う。「まことに正しい人には報いがある。まことにさばく神が地におられる。」

この世の不正や苦難を見て、ある人々は神などいないと言います。それに対してダビデは、「力あ



る者よ。ほんとうに、おまえたちは義を語り、人の子らを公正にさばくことができるのか。」と問いかけます。神がいなくても、では変わりに人間が正義を貫けるかという、そんなことはないのです。

神は愛の神でもあります。多くの不従順の人々が神に立ち返るようにと、忍耐を持って待っていてくださるのです。その神に対して、さばきがないから神はいないと言うことはできません。

しかし最終的には神様は、人々に言わしめます。すなわち「まことに、正しい者には報いがある。まことに、まことにさばく神が地におられる。」という事実です。

その事実を今のうちから、私たちは信仰によって告白し、体験させていただきましょう。それがダビデのような信仰の勝利者なのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



<59> 指揮者のために。「滅ぼすな」の調  
べで。ダビデによる。ミクナム。ダビデを殺  
そうとサウルが人々を遣わし、彼らがその家  
の見張りをしたときに。

59:1 私の神よ私を敵から救い出してください。  
向かい立つ者たちよりも高く私を引き上  
げてください。  
59:2 不法を行う者どもから私を救い出してく  
ださい。人の血を流す者どもから私を救って  
ください。  
59:3 今しも彼らは私のたましいを待ち伏せし  
力ある者どもは私に襲いかかるうとしています。  
【主】よそれは私の背きのゆえでもなく  
私の罪のゆえでもありません。  
59:4 私には咎がないのに彼らは走り身構えて  
います。どうか目を覚ましここに来て見てく  
ださい。  
59:5 あなたは万軍の神【主】イスラエルの神。  
どうか目を覚ましすべての国を罰してくださ  
い。邪悪な裏切り者をだれもあわれまないと  
ください。セラ  
59:6 彼らは夕べに帰って来ては犬のようにほ  
え町をうろつき回ります。  
59:7 ご覧ください。彼らの唇には多くの剣が  
ありその口で放言しているのです。「だれが  
聞くものか」と。  
59:8 しかし【主】よあなたは彼らを笑いすべ  
ての国々を嘲られます。  
59:9 私の力よ私はあなたを見続けます。神が  
私の砦だからです。  
59:10 私の恵みの神は私を迎えに来てくださ  
い。神は私に敵を平然と眺めるようにしてく

ださる。

59:11 彼らを殺してしまわないでください。  
私の民が忘れることのないように。御力に  
よって彼らをさまよわせてください。彼ら  
を打ち倒してください。主よ私たちの盾よ。  
59:12 彼らの口の罪は彼らの唇のことば。彼  
らは高慢にとらえられるがよい。彼らが語  
る呪いとへつらいのゆえに。  
59:13 憤りをもって滅ぼし尽くしてください。  
滅ぼし尽くしてください。彼らがいなくな  
るまで。神が地の果てまでもヤコブを治め  
られることを彼らを知るようにしてくださ  
い。セラ  
59:14 彼らは夕べに帰って来ては犬のよう  
にほえ町をうろつき回ります。  
59:15 食を求めてさまよい歩き満ち足りな  
ければ夜を明かします。  
59:16 しかしこの私はあなたの力を歌います。  
朝明けにはあなたの恵みを喜び歌います。  
私の苦しみの日にあなたが私の砦また私の  
逃れ場であられたからです。  
59:17 私の力よ私はあなたにほめ歌を歌いま  
す。神は私の砦私の恵みの神であるから  
です。

ダビデには敵からの救いの可能性は全くないよ  
うに思えます。その中で彼は、「高く引き上げて  
ください」と嘆願しています。人の次元ではない、  
神の次元での救いを期待しているのです。

ダビデは自分の惨状を訴えているようで、しかしその  
願いは全くの勝利を歌っています。「憤りをもって滅  
ぼし尽くしてください。滅ぼし尽くしてください。  
彼らがいなくなるまで。神が地の果てまでもヤコ  
ブを治められることを彼らを知るようにしてくだ  
さい。」というように。

主への嘆願が、勝利の宣言となるまで祈りま

しょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の  
約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願  
いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなた  
の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 23日 土曜

### 詩篇

<60> 指揮者のために。弦楽器に合わせて。  
第八の調べにのせて。ダビデの賛歌。

60:1 神よあなたは私たちを拒み私たちを破られました。あなたは怒られました。どうか私たちを回復させてください。

60:2 あなたは地を揺るがし引き裂かれました。その裂け目を癒やしてください。地が揺れ動いているからです。

60:3 あなたは御民を苦しい目にあわせよめかず酒を私たちに飲ませられました。

60:4 あなたはあなたを恐れる者に旗を授けられました。弓から逃れた者をそこに集めるために。セラ

60:5 あなたの愛する者たちが助け出されるようあなたの右の手で救い私に答えてください。

60:6 神は聖所から告げられました。「わたしは喜んでシェケムを分けスコテの平原を測ろう。

60:7 ギルアデはわたしのもの。マナセもわたしのもの。エフライムはわたしの頭のかぶと。ユダはわたしの王笏。

60:8 モアブはわたしの足を洗うたらい。エドムの上にわたしの履き物を投げつけよう。ペリシテよわたしのゆえに大声で叫べ。」

60:9 だれが私を防備の町に連れて行くのでしょうか。だれが私をエドムまで導くのでしょうか。

60:10 神よあなたご自身が私たちを拒まれるのですか。神よあなたはもはや私たちとともに出陣なさらないのですか。

60:11 どうか敵から私たちを助けてください。



人による救いはむなしからです。  
60:12 神にあって私たちは力ある働きをします。神が私たちの敵を踏みつけてくださいます。

ヨアブによる大勝利があったのですが、その勝利にいたるプロセスとして、表題にあるように「救いのために」（ここには表記されていませんが）ダビデが歌ったものです。成功したらそれで安心して、それ以前のことを忘れてはいけないという思いで歌われたのでしょうか。

ここにはエドムに責められて弱り果てているダビデとその王国の様子が表わされています。しかしここには「旗を授けられました」と、主がその聖名を掲げて戦っておられるのが分ります。苦難においては人ではなく、主が頼りになる方なのです。

成功や勝利のときこそ、自分の苦しかったときや主に背いていたことを思い出しましょう。そこで主の憐れみや力を再確認しましょう。主に感謝しつつ主に従いましょう。また同じ不信仰を繰り返さないようにしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 24日 日曜

### 詩篇



5節以下の希望の告白に導かれるのです。

<61> 指揮者のために。弦楽器に合わせて。  
ダビデによる。

61:1 神よ私の叫びを聞き私の祈りに耳を傾けてください。

61:2 私の心が衰え果てる時私は地の果てからあなたを呼び求めます。どうか及びがたいほど高い岩の上に私を導いてください。

61:3 あなたは私の避け所敵に対して強いやぐら。

61:4 私はあなたの幕屋にいつまでも住み御翼の陰に身を避けます。セラ

61:5 神よまことにあなたは私の誓いを聞き入れ御名を恐れる者の受け継ぐ地を私に下さいました。

61:6 どうか王のいのちを延ばしその齢を代々に至らせてください。

61:7 王が神の御前でいつまでも王座に着いているようにしてください。恵みとまことを与えて王をお守りください。

61:8 こうして私はあなたの御名をとこしえまでもほめ歌い日ごとに私の誓いを果たします。

ダビデがアブシャロムに裏切られて、命の危険にさらされたゆえに逃れているときの歌と思われまます。「叫び」が出るほどの状況です。どれほど精神的に追い詰められたかと思われまますが、そのようなときにダビデは神に向かっています。

ここにクリスチャンの信仰があります。信仰とは信じる力で乗り越えるのではなく、神に依り頼んで乗り越えさせていただくのです。信仰が強いから戦えるのではなく、弱いからこそ主に頼んで、主に戦っていただくのです。試練にある人はそのような考えを持ちましょう。

そのとき、主は「強いやぐら」であると分ります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

